【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【公開番号】特開2011-136542(P2011-136542A)
【公開日】平成23年7月14日(2011.7.14)
【年通号数】公開・登録公報2011-028
【出願番号】特願2010-134(P2010-134)
【国際特許分類】
Ｂ４１Ｍ　5/00　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ　11/00　(2006.01)
Ｂ４１Ｊ　2/01　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４１Ｍ　5/00　Ａ
Ｃ０９Ｄ　11/00
Ｂ４１Ｍ　5/00　Ｅ
Ｂ４１Ｊ　3/04　１０１Ｙ

【手続補正書】
【提出日】平成24年12月26日(2012.12.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
顔料を含有してなるインクと共に用いられる、インクジェット用の反応液であって、
フッ素系界面活性剤及び多価金属塩を含有し、
前記フッ素系界面活性剤が、（メタ）フルオロアルキルアクリル系単量体と、（メタ）アクリル系単量体とを共重合してなるフルオロアルキル化合物であることを特徴とする反応液。
【請求項２】
前記フッ素系界面活性剤のＨＬＢ値が、１３以下である請求項１に記載の反応液。
【請求項３】
前記フッ素系界面活性剤の含有量（質量％）が、反応液の全質量を基準として、０．０１質量％以上１．０質量％以下である請求項１又は２に記載の反応液。
【請求項４】
さらに、炭化水素系界面活性剤を含有してなる請求項１乃至３のいずれか１項に記載の反応液。
【請求項５】
２５℃における表面張力が、２５ｍＮ／ｍ以下である請求項１乃至４のいずれか１項に記載の反応液。
【請求項６】
反応液とインクとを記録媒体において互いに接触させて記録を行うインクジェット記録方法であって、反応液に請求項１乃至５のいずれか１項に記載の反応液を用いることを特徴とするインクジェット記録方法。
【請求項７】
反応液とインクとの組み合わせを有するインクセットであって、反応液が、請求項１乃至５のいずれか１項に記載の反応液であることを特徴とするインクセット。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
上記の目的は以下の本発明によって達成される。すなわち、本発明は、顔料を含有してなるインクと共に用いられる、インクジェット用の反応液であって、フッ素系界面活性剤及び多価金属塩を含有し、前記フッ素系界面活性剤が、（メタ）フルオロアルキルアクリル系単量体と、（メタ）アクリル系単量体とを共重合してなるフルオロアルキル化合物であることを特徴とする反応液である。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
表３:インクセットの構成と評価結果

	インクセットの構成		評価結果	
	インクの種類	反応液の種類	発色性	耐ﾏｰｶｰ性
実施例１	1	1	A	A
実施例２	1	2	A	A
実施例３	1	3	A	A
実施例４	1	4	A	A
参考例５	1	5	A	B
参考例６	1	6	A	B
参考例７	1	7	B	A
参考例８	1	8	B	B
参考例９	1	9	B	B
実施例10	1	10	A	B
比較例１	1	11	B	C
比較例２	1	12	C	C
比較例３	1	13	C	B
比較例４	1	14	B	C

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７１】
なお、参考例８の反応液８は、他の反応液と比較して、吐出性がやや劣っていた。インク１に代えてインク２を使用した場合も、評価結果は上記表３と同様であった。